

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・新型コロナウイルスにより、様々な学校行事や部活動等の大会等が中止になったり、規模を縮小したりするなどの影響があった。そうした中、ICTを活用するなど新しい生活様式を踏まえた対応ができるようになってきている。</p> <p>・生徒の安全安心な学校生活の確保のため、教育相談を充実させており、スクールカウンセラーや外部機関と連携を図りながら、適切な対応ができている。</p> <p>・教職員に生徒のために頑張っている意識が強くなり、時間外労働の削減が一定程度できたが、まだまだ不十分な結果であった。</p>
----------------------	---

2 学校教育目標	<p>本校の校訓である「創意(Originality)」・「挑戦(Great Challenge)」・「誠実(Integrity)」の実践を推奨し、豊かな人間性を育む。「文武一途」を奨励し、総合力としての「生き抜く力」を育成する。社会の変化とともに、次代を担う生徒に求められる資質や能力も変わる中で、新しい教育の指針に盛り込まれた改革の流れを敏感に捉え、進んで「教育イノベーション」に取り組んでいく。</p>
-----------------	--

3 本年度の重点目標	<p>「確かな学力の育成」(知育): 資質・能力の3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間力」の育成、基礎的・基本的な知識・技能(基礎学力)の定着、個の進路に応じた受験学力の育成</p> <p>「豊かな人間性の育成」(徳育): 情報モラル教育及び「いじめ」の防止対策の推進、自己肯定感や自己有用感を高める体験活動の推奨、人権・同和教育の充実</p> <p>「健康・体力の育成」(体育): 健康の自己管理能力の育成、部活動の活性化</p>
-------------------	---

4 重点取組内容・成果指標 **5 最終評価**

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着及び進路実現を見据えた学習指導の実施 ○キャリア教育の充実及び生徒の進路志望の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の代表者が研究授業を行い、授業改善について研究協議する。 ○教科担当者会議を2回以上行い、教科間の連携や分析を行う。 ○個人面談を年3回以上行い、自らの生き方を考えさせ、興味・関心、能力、適性に基づいて主体的に進路を決定できる能力の育成を図る。 ○国公立大70名以上、難関4年制大学5名以上の合格を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AL的な視点(主体的な学び、対話的な学び、深い学び)に立った指導法を研究し、授業改善に取り組む。 ・模擬試験や定期考査の分析を行い、各教科の課題量や質、学習時間の配分について教科担当者や担任で綿密な情報交換と連携を行う。 ・教職員はキャリア・カウンセリング・マインドとスキルの共有を図り、個人面談等を行う。 ・総合的な探究の時間、キャリア教育講演会等の行事を通して、生徒のキャリアデザイン力の育成を図る。 ・学習および進路支援充実のために、細やかな個人面談を行う。また、3年生では進路検討会を実施し、現状や課題、指導指針の共有を図る。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ◎★自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒や職員が人権感覚を身につけるための、研修機会を年2回以上確保する。 ○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教職員の割合を70%以上にする。 ◎郷土小域や佐賀について学ぶ活動や講演会を実施し、アンケート等で郷土に愛着を持っている生徒80%以上にする。 ★地域の行事や校外のイベントに参加する生徒を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習・進路保障HR活動を全てのクラスで実施する ・人権・同和教育講演会を実施する ・いじめアンケートを実施し、正確な実態把握100%と状況改善100%に努める。 ・全校集会や学年集会だけでなく、日々のHRや授業、部活動などで、いじめや差別や偏見につながるような行為は許されないことを説き、道徳心の育成に努める。 ・情報モラルに関する講演会を行う。 ・SDGs講演会や「さがを誇りに思う講演会」を実施し、地元小域や佐賀の魅力について知見を深め、持続可能なよりよい社会を形成しようとする意識や意欲を醸成する。 ・地域の行事や校外のイベントの情報を生徒に周知し、積極的な参加を促す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習・進路保障HR活動を全てのクラスで実施できた。 ・生徒および職員向けの人権・同和教育講演会を実施できた。 ・職員向けの人権問題研修会を実施できた。 ・2学期に学校生活に意義を見出せなかった生徒が、教育相談室でリモート授業を受けることができるようになってきている。教育相談部を中心に学年や生徒支援部で連携し対応ができている。 ・学年回や教育相談部などを中心に、情報共有を密にして、実態把握や迅速な対応に努めることができた。情報モラルに関する講演会をリモートで実施し、啓発活動を行うことができた。 ・9月に「さがを誇りに思う講演会」を実施し、「地元や佐賀に愛着を持つことができた」と回答した生徒が81%以上であった。また、12月にオンリーワン課題探究発表会を実施し、地域社会の課題についての調査・取組の成果を発表し、SDGsへの理解を深めた。 ・小域で開催されるイベントや行事等について紹介を行い、ボランティア等の形で多くの生徒が参加することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様性」はこれからの社会のキーワードである。学校生活の中でいろいろな経験ができる場面を提供してほしい。コロナ渦の中で生徒達は深く考えたのではないだろうか。 ・様々な事象への対応を、どのように取り扱うかのマニュアルが整備されている。 ・差別のない世界を作る教育ができている。 ・人が集まれば、大なり小なりいじめのような言動が生まれる。それを前提に対応してほしい。いじめ等に対応する窓口、職員には複数のチャンネルがあった方が良いのではないだろうか。 ・いじめ等の問題の早期発見、組織的に対応する体制ができている。 ・リモート授業が生徒を前向きにさせるような有効活用ができている。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○感染症対策として免疫力を高める食事の摂取の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上(高2対象) ○毎朝、朝食を自宅ですべて登校する生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりの発行を通して、食や健康管理に関する意識を高める。 ・保護者への個別の連絡を徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康に食事は大切・やや大切」と答えた生徒(高2対象)は100%という結果であり意識の高さがうかがえたものの、「毎朝、朝食を自宅ですべて登校する生徒」は昨年度よりも5%程高くなっているものの85.9%という結果となり、目標の90%以上には達せなかった。食事が大切だという意識を朝食と自宅ですべてという行動に変える方策を考えなければならぬ。 ・感染症対策を含め保健だよりでこまめに情報提供を今後も継続して行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本来なら、家庭や小、中学校でしっかり取り組んでおくべき課題だと思うが、保護者との共通認識の下で進めてほしい。 ・3年生の朝食接触率が低くなっていることが気になる。疲れなどが出ているのではないのか。 ・部活動の指導の中でも留意してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○各種休暇を取得するように奨励し、心身の疲労による休職者を出さない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日、学校閉庁日、部活動休養日を設定する。 ・職員一人一人が業務、会議の効率化に取り組み、時間外勤務時間の削減を図る。 ・衛生委員会などで情報を共有し、気になる職員には個別に対応する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より各月の平均時間外勤務時間や80時間以上の超過勤務者の人数が減少した。 ・振休を取得するのが、慣習化できている。 ・気になる職員については、衛生委員会で情報収集し対応してきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人、自分の業務を見直す作業が重要で意外にできていないようできていないケースが多い。本気で取り組む自覚を持つのが難しいので、組織全体の空気を突く必要がある。 ・部活動があるため、時間外勤務時間が多くなるのは中学校も同じである。悩ましい限りである。 ・教職員の時間外勤務時間は減少傾向にあるものの、長時間労働がまだまだ多い印象がある。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○合理的配慮の充実 ○チーム支援体制の強化 ○早期発見、早期対応の徹底 ○個に応じた教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○合理的配慮について、必要な生徒及び保護者の理解を100%にする。 ○支援が必要な生徒は100%チームで対応する。 ○2次障害を発症する生徒をなくす。 ○多様な価値観で生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者との面談。適切なSCの活用。合理的配慮の実施及び評価の徹底。 ・適切なタイミングで支援会議を開催する。 ・毎月教育相談会議を開催して、情報共有を行う。 ・学期に1回、職員研修を行う。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ★...唯一無二の誇り高き学校づくり</p> <p>・「進化!小域高校2022始動」を掲げ、来年度からの校務分掌の見直しなどの改革に取り組んだ。秋には地域の方々に広く参加者を募集し、音楽会を初めて開催し参加者等から高評価を得ることができたが、教育活動を校内だけで完結しない今後の高校のあり方を体現できた取組であった。</p> <p>・生徒の安全安心な学校生活の確保のために、教育相談を充実させ、SCやSSW、外部機関等と連携を取りながら、適切な取組を実践することができた。次年度は、校務分掌の再編することで、更に全職員が一丸となって連携を強化し多様化する生徒の指導・支援にきめ細やかな対応を推進していく。</p>
-----------------------	--